広大歯誌　37，129-135，2005.

小児歯科領域におけるインターネット上のウエッブページを拠点とした子育て支援事業に関する研究

海原　康孝，川崎　裕美*，香西　克之**

A Study on Pediatric Dentistry in Web-based Child care Support Project

Yasutaka Kaihara, Hiromi Kawasaki* and Katsuyuki Kozai**

（平成17年9月29日受付）

緒　　言

「健康日本21」では，自らの健康は自らが守るとの基本理念が貫かれており，豊かな人生を生きるための自己実現を図る手段として住民参加（住民組織活動）が策定の主旨に位置づけられている。また，母子保健（子育て支援）の取り組みとして「健やか親子21」が策定され，市町村は目標達成に邁進している。さらに，「次世代育成支援推進法」が成立し，各自治体は「子育て支援」に一層重点を置くことを迫られている。

このような時流に沿って，小児歯科医も子育て支援に積極的に関わっていかなければならない。小児歯科医が子育て支援に参加することは，小児の口腔における健康づくりに関して，学問的実証に基づく知識を提供できるといった意味で非常に重要な意義があると考えられる。また，小児歯科医が子育て支援を通じて，住民の小児の口腔保健に対する意識やニーズを探ることもできる。その結果，活動を通じて支援する側と支援される側の双方が子育てや健康のあるべき姿を追求していくことが可能になると思われる。

さらに，住民が健康問題に関する適切な支援を受けるためには，さまざまな職種の専門職の連携が不可欠である。小児歯科医にとっても，単独で支援活動に加わるより他業種の専門職と交流しながら支援活動を行ったほうが，よりきめ細やかで内容の濃い支援を行うことができると考えられる。

現在，財団法人広島県環境保健協会では，「健やか親子21」の目標達成のための包括的事業として，専門職集団を中心とした住民参加型の母子保健支援事業を展開している。この事業はホームページを拠点としたものであるが，一方的に専門職が指導するような形ではなく，住民が主体的に参加できるような子育て支援活動を計画し遂行することを理念としている。また，この事業は広島県内における子育て支援と子育てを通した地域社会の活性化（援助）を図ることも目標としている。本稿では，広島県環境保健協会が実施している事業における小児歯科医としての活動状況を報告する。

活動内容および調査方法

1.　活動の内容について

ホームページのタイトルは，「子育てあそ Bee 国（びいランド）」（http://www.asobee.jp）であり，2002年7月1日に公開された。図1に表紙のページを，表1に本ホームページに掲載されている主たる項目とその内容を示す。

ホームページ内で，小児歯科に関する内容が含まれているコーナーは4つある。その中の「こどものお口情報館（ライブラリー）」というコーナーには，表2に示す項目が掲載されている。また，「バトル　in 小児歯科診療室」という，診療室での会話を集めたコーナーがある。さらに，Q & A 集と知っとく情報（トピック集）の中に，小児歯科に関する内容が一部含まれている。

本事業の運営にあたり，広島県環境保健協会は，小児科医師，小児歯科医師，保健師各1名をアドバイザーとして組織化した。アドバイザーと協会のスタッ

広島大学病院口腔健康発育歯科小児歯科（科長：香西克之教授）
* 広島大学大学院保健学研究科看護開発科学講座（主任：横尾京子教授）
** 広島大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔頚部医科学講座小児歯科学研究室（主任：香西克之教授）
本論文の要旨の一部は第43回日本小児歯科学会大会（2005年5月26，27日）において発表した。

図1　トップページ

表1　代表的なホームページの項目

	項　目	内　容
何でも仕入れよう！	1）子育て支援情報	子育て関連施設・支援機関（児童相談所など）の紹介
	2）子育て支援制度	子育てに関する制度や法律の紹介
	3）子育て Q&A	医療や健康・生活に関する一般的な情報の提供
子育てアドバイス	1）こどものお口情報館（ライブラリー）	小児歯科に関する内容
汗闘？！あそ Bee ガイド	1）小児科医のたわごと	小児科医としての経験を基づいた小児の健康や子育てに関するエッセイ
	2）ほけんし閑話休題	保健師による子育ての知識や方法についてのエッセイ
	3）バトル in 小児歯科診療室	小児歯科医，スタッフ，患児およびその保護者の診療室での会話
みんなで楽しもう！考えよう！	1）漫画『かんちゃん家』	子どもの面白いエピソードを 4 コマ漫画で紹介するコーナー
	2）バーチャル育児サロン	母親同士の会話を通じて子育てを考えるコーナー
みんなで作るコーナー	1）知っとく情報	主に健康管理についての情報の提供
	2）サークル情報	子育て支援に関するサークルの情報の提供
入ろう！話そう！（会員限定コーナー）	1）子育て質問受付 BOX	子育ての不安や疑問，相談の受付
	2）育児サロンへどうぞ	「バーチャル育児サロン」に対する意見・感想を語り合う掲示板
	3）何でも話そう！	子育てに関する問題をみんなで話し合う掲示板
	4）子育て質問受付 BOX	子育ての不安や疑問，相談の受付

表2　子どものお口情報館（ライブラリー）の項目

項　　目	内　　容
乳歯を大切にしよう！	乳歯の萌出時期や役割について
虫歯とはどんな病気か？	う蝕の病態や進行について
虫歯を予防しよう	飲食物の選択と摂取の方法やブラッシングの方法について
6歳臼歯は歯の王様	6歳臼歯の重要性について
歯並びとかみ合わせ	不正咬合の種類と治療について
くせや習慣と歯ならび	習癖について
お口の健康はよい生活習慣から	口腔の健康に役立つ日常生活習慣について
定期健診を受けましょう	定期健診の意義について

フが定期的な会議を行うことにより，事業の方向性および内容について調整や更新を行っている。

本事業では，個人のプライバシー保護を最優先している。そのため，ホームページに会員登録制を採用し，一般閲覧部分と登録者部分の区別を行っている。入会の際には，事業の目的と内容について十分な説明を行い，書面にて同意を確認するようになっている。会員以外はホームページの掲示板に書き込んだり専門職に相談したりできない仕組みである。また，ホームページへの記入の際は，ニックネームを使用することで個人の特定ができないようになっている。ただ，相談コーナーについては，適切なアドバイスができるよう，担当する専門職のみに限られた個人の属性がわかるようにされている。

2.　ホームページのアクセス件数に関する調査

公開後から2004年12月31日までのホームページのトップページへのアクセス件数および登録会員数について集計した。また，「こどものお口情報館（ライブラリー）」の2004年1月1日から12月31日までの各項目別のアクセス件数について月別に集計し，検討した。なお，アクセス数のデータは，広島県環境保健協会が，毎月1回某企業にアクセスカウントのデータの提供を依頼して得ているものを使用した。

3.　子育て支援フォーラムにおける講演

広島県環境保健協会は，広島県の県北部に位置するK町教育委員会からの子育て支援事業の委託を受け，保健師が中心となり「子育てあそ Bee フォーラム」というフォーラムを企画・開催した。今回行われたフォーラムは，時代や社会の様相によって変化する子育ての中で，保護者が決断することの大切さを習得し，参加者同士の交流を通して，子育ての不安や悩みの解消方法のヒントを得ることを目的としたものである。表3に企画されたプログラムとタイムスケジュールを示す。フォーラムでは，小児歯科医は講演を担当した。内容は，「くせや習慣と歯ならび」と題し，小児歯科で重要なテーマと思われるものの中から，「指しゃぶり」「おしゃぶり」「口唇閉鎖」「食事中の姿勢」について取り上げた。

表3　子育て支援フォーラムのプログラムおよびタイムスケジュール

時刻	内　　容
9：40	受付
10：00	開会挨拶 ※ 料理教室参加者は調理室へ移動
10：05	自己紹介＆子育ておもしろ話 ・じゃんけん大会 ・自己紹介＆子育ておもしろ話
10：20	工作「お土産づくり ～ビーズストラップ～」
10：35	ディスカッション「バーチャルファミリー 我が家の決断」
11：15	子育て講義「知識のお土産」 ①くせや習慣と歯ならび ②子育てについて
11：55	まとめ＆アンケート記入
12：00	閉会

結　　果

1.　活動内容について

ホームページの公開以降，全てのコーナーの内容は徐々に増加・充実していった。また，専門職の組織化により，小児の健康問題についてのさまざまな立場からの情報提供や，子育て支援機関の紹介など，多面的な内容をホームページ上に掲載することが可能であった。

また，会員登録制を採用した結果，会員は掲示板上

で意見を自由に交換し，専門職に質問をすることが可能であった。会員専用のページでは，個人名が特定されることや，プライバシーが侵害されること，ホームページの趣旨にそぐわない無意味な書き込みが行われることは皆無であった。

2. ホームページのアクセス件数に関する調査

ホームページ公開後は徐々にアクセス件数は増加し，2004年12月31日におけるトップページへのアクセス件数は13,745件であった。また，会員登録制により入会した会員は，2004年12月31日現在54名であった。

表4に2004年1月1日から12月31日までの1年間における「お口の情報館（ライブラリー）」へのアクセス件数を，図2にアクセス件数の変化を示す。このコーナーの1年間全体を通してのアクセス件数は5,924件であった。このうち，最もアクセス件数の多かった項目は，「くせや習慣と歯並び」で，次いで「虫歯を予防しよう」，「乳歯を大切にしよう」の順で，アクセス件数は順に1,390件（27.7%），1,053件（21.0%），1,037件（20.6%）であった。また，「虫歯を予防しよう」のコーナーは，6月のアクセス件数が最も高かった。一方，アクセス件数の低かった項目は，「定期健診は子育て支援」と「お口の健康はよい生活習慣から」であった。アクセス件数は，それぞれ186件（3.7%），286（5.7%）件であった。

3. 子育て支援フォーラムでの講演会について

フォーラムの中の講演「くせや習慣と歯ならび」では，参加者全員が熱心に講演を聞いていた。講演では「指しゃぶり」「おしゃぶり」「口唇閉鎖」「食事中の姿勢」の問題を取り上げたが，どのテーマについても，講演後に非常に活発な質疑応答が行われた。また，

表4　こどものお口情報館（ライブラリー）へのアクセス数（2004年1～12月）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（%）
乳歯を大切にしよう	95	75	66	98	82	152	101	209	188	157	100	67	1053（20.96）
虫歯とはどんな病気か	78	52	74	67	54	55	56	108	86	94	49	34	594（11.82）
虫歯を予防しよう	109	57	54	90	67	203	138	146	160	179	130	107	1037（20.64）
六歳臼歯は歯の王様	58	24	28	32	47	121	78	127	112	108	54	71	653（13.00）
歯並びとかみあわせ	99	50	48	66	62	97	112	124	113	103	60	37	725（14.43）
くせや習慣と歯並び	166	130	144	148	139	197	197	202	187	176	89	108	1390（27.67）
お口の健康はよい生活習慣から	NA	NA	NA	23	32	33	33	43	56	66	30	22	286（5.69）
定期健診は子育て支援	NA	NA	NA	NA	NA	33	28	43	43	39	13	13	186（3.70）
合　計	605	388	414	524	483	891	743	1002	945	922	525	459	5924（100.00）

（NA：項目が掲載されていないことを意味する）

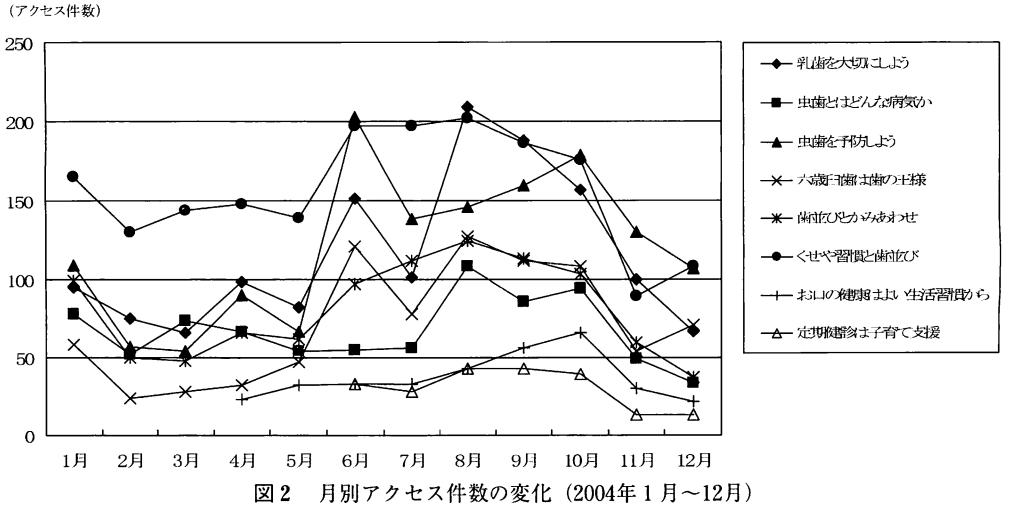

図2　月別アクセス件数の変化（2004年1月～12月）

フォーラム終了後，アンケート調査を行った結果，参加者全員から「大変ためになった」という回答が得られた。

考　　察

1. 活動および専門職として事業に参加した意義について

育児中の母親は，閉鎖的環境や孤立感から虐待に至りやすいことが指摘されている[1)]。子育てを行う中での孤立感や不安を軽減することは，虐待を早期に防止する上でも重要であると考えられる。こうしたことから，育児サークル，育児ボランティア，育児サポートなどのNPO活動など，育児や母親を支援する活動が増え，多様化してきている。このような活動を適切に利用することは，育児中の母親が持つ不安感を軽減する上で有効な手段であると思われる。しかし，このような活動は，参加する際に時間や場所に制約があり，また，活動に参加することを好まない人や，問題解決の場を見つけられない人も多々いると考えられる。このように子育てサークルに参加できないような母親も支援の対象として極めて重要である。

近年インターネットの普及により，育児に関する情報をホームページで収集するケースが増えてきている。こうした現状から，育児支援も，ホームページや携帯電話による情報発信が増え，母親の間で活発に利用されるようになってきた。現在，ホームページや電子メールを利用することで，社会との接点を見出している人も多数存在すると考えられる。ホームページの活用は，体裁や時間を気にせず行うことができ，世代を超えた支援やコミュニケーションにも対応できるものである。

本事業においても，広島県環境保健協会が専門職を組織化することにより，小児の健康問題についてのさまざまな立場からの情報提供，あるいは子育て支援機関の紹介といった，多面的な内容をホームページ上に掲載することが可能であった。アクセス件数からみても，本ホームページから情報を得ている人の存在は明らかであり，本ホームページがある種の育児書としての意味を持ちつつあることが伺える。

しかし，その一方で，ホームページは閲覧や一方的なコミュニケーションは容易であるが，それが直接的に援助に結びつくという確かな保証がない。この点を補うため，地域における直接的な子育て支援や地区組織の育成，ホームページの運営に関わる専門職の組織化などをモデル地区で行っている。現在，活動の趣旨に賛同を得た地区活動支援センターと広島県環境保健協会が連携し，専門職集団を中心としたワーキンググループにより，ホームページの運営や組織化，評価方法，データの収集方法について検討を重ねている。また，ホームページの内容についても，育児書のように自分が知りたい内容を簡単に参照できるようにする，あるいは支援機関の紹介をするなど，閲覧者にとって利便性の高い内容になるよう，更新のたびに配慮されている。

以上のように，今後も組織や専門職，参加者の量的・質的評価を行いながら，IT技術を利用した子育て支援，および子育てを支援する地域組織育成の方法と役割分担のあり方を検討していく予定である。

また，会員登録制を採用することにより，会員は気軽に掲示板上で意見を交換し，専門職に対する質問をしたりすることが可能であった。したがって，このシステムは，ホームページを閲覧するだけでは実際の支援が困難であるという弱点を補うものであると推察される。さらに，会員専用のページでは個人名が特定されることやプライバシーが侵害されることは皆無であった。このことはプライバシーの保護の問題についても，充分な対応がなされていると考えられる。また，無意味な書き込みが行われることはなかった。このことはホームページの運営上からも，また，会員が適切な情報を得る上でも非常に有意義であると思われる。

2. ホームページのアクセス件数に関する調査について

2004年12月31日現在，トップページへのアクセス件数は13,745件で，会員数は54名であることから，本ホームページについては参照のみ行っている閲覧者が多いと考えられる。

また，「子どものお口情報館」の中で最もアクセス件数の多かった項目は，「くせや習慣と歯並び」のコーナーで，次いで「虫歯を予防しよう」，「乳歯を大切にしよう」，の順であった。「くせや習慣と歯並び」の内容は，項目には1．指しゃぶり　2．舌のくせ　3．おしゃぶり　4．口を結びましょう　の4つが含まれている。指しゃぶりは幼少の子どもによくみられる行為であることや，近年おしゃぶりの使用についての関心が高まっていることなどが，この項目に対するアクセス件数の多い原因になっていると推察される。虫歯予防のコーナーについては，他の月に比べて6月のアクセス件数が最も高かった。これは6月に行われる虫歯予防デーであることと関連性があると推察される。

今回の調査結果では，歯並びや虫歯予防などと比較して，定期健診の重要性や，良い生活習慣についてのアクセス件数が少なかった。本調査以外に報告されている小児歯科に関するホームページのアクセス件数に

ついては，大阪小児歯科臨床専門医会の調査報告[4]がある。それによると，相談内容と相談者の求めているものは，①受診の必要性に関するもの，②現象の対処方法の質問，③現在の治療に関する疑問，④一般的な質問（保健指導の助言を求めるもの），⑤どこに相談したらよいのか，となっている。小児歯科は，発足当初から一人の患者を定期的・継続的に診ることを最も重要視してきた。しかしながら，このアクセス状況からは，歯科医療に対する主たる関心は，不正咬合やう蝕といった疾患の病態や治療内容についてであり，歯科医院は何か自分が問題点を感じたときに行く場所であると認識していると推察された。小児歯科が定期健診を土台として年齢に応じた健康づくりを行っていく科であるという認識が広まっていないと考えられ，小児歯科側も，この点をもっと広くアピールし，意識改革を行っていく必要性が示唆された。

3. 子育て支援フォーラムにおける講演会について

子育て支援フォーラムにおける「くせや習慣と歯ならび」の講演は，講演後の参加者のアンケートでは参加者全員から「大変ためになった」という回答が得られた。このことは，参加者が多様なフォーラムの内容の中に小児歯科に関する項目が盛り込まれる意義を認め，違和感なく自然に受け入れたことを意味すると思われる。これは，小児歯科を社会に広めていくのにあたり，小児科や育児などと一緒に子育て全体の問題の中に含めて提示することの有用性を示唆するものと考えられる。

また，今回の講演では「指しゃぶり」「おしゃぶり」「口唇閉鎖」「食事中の姿勢」の問題を取り上げたが，どのテーマについても，講演後に非常に活発な質疑応答が行われた。このことは，小児の口腔の健康を左右するさまざまな生活習慣の存在を広くアピールしていく必要性を示すものと思われる。

4. 小児歯科の子育て支援における役割について

医療従事者にとって地域保健活動を行うことは，地域の状況の把握や保護者や他業種との情報交換など，社会との関わりを持つことになり，非常に有意義であると思われる。近年歯科領域においても，子育て支援の重要性を指摘されている[3]。東京都歯科医師会は，虐待やネグレクトの予防や早期発見を目的として，2003年に子どもの虐待と子どもの口腔内の状態の関係性についての調査結果を発表している[4]。また，川崎らは，母親が持っている育児不安と健康・教育機能感との間に有意な関連性を認めた，と報告している[5]。筒井らの研究においても母子関係と口腔内の状態との関連性を認めている[2]。このように口腔内の状態と子育てとのあり方とは大いに関連があることが伺われる。

子育て支援活動により，支援される側が子育てや健康に関して学問的な実証に基づいた知識を得るだけでなく，支援する専門職側も支援すべき内容や変革すべき点を知ることになり，より緻密できめ細やかな支援が可能となると考えられる。

また，このような社会活動を行うことは，保健・医療・福祉の動向を捉え，そこで発見されうる問題点や住民と行政と専門職の関わり方を探索することにもつながり，非常に有意義であると推察される。さらに，本事業の成果は，小児歯科の立場から子育て支援活動を行っていく上でのひとつのケーススタディとしての意味を持ち，小児歯科の新たな方向性を示唆するものであると考えられる。

結　　論

財団法人広島県環境保健協会が主宰する母子保健支援事業に，専門職の一員として参加し，活動を行った結果，以下の結論を得た。

1. ホームページの公開以来，全てのコーナーの内容は徐々に増加・充実した。また，広島県環境保健協会が，専門職を組織化することにより，ホームページ上に，小児の健康に関するものから子育て支援機関の紹介にいたる，多面的な内容が掲載可能であった。

2. 会員登録制を採用することにより，会員は気軽に掲示板上での意見を交換したり，専門職へ質問することが可能であった。さらに，会員専用のページに対し，プライバシーや個人名が特定されることや，無意味な書き込みが行われることは皆無であった。

3. ホームページ公開後，2004年12月31日現在のトップページへのアクセス件数は13,745，登録会員数は54名であった。

4. 2004年1月1日から12月31日までの1年間における，「お口の情報ライブラリー」へのアクセス件数は5,924件であった。このうち，最もアクセス件数の多かった項目は，「くせや習慣と歯並び」で，次いで「虫歯を予防しよう」，「乳歯を大切にしよう」の順であった。一方，特にアクセス件数の低かった項目は，「定期健診は子育て支援」と「お口の健康はよい生活習慣から」であった。

5. 子育て支援フォーラムにおいて，「くせや習慣と歯ならび」と題した講演会を行なった。参加者は皆非常に熱心に講演を聞き，講演後にも活発な質疑応答が行われた。また，フォーラム終了後のアンケートからは，この講演について参加者全員から「大変ためになった」という回答が得られた。

以上より，このような事業に対し小児歯科医が参加することは，保健・医療・福祉の動向を捉え，そこで発見されうる問題点や住民と行政と専門職の関わり方を探索することにもつながり，非常に有意義であると推察される。さらに，本事業の成果は，小児歯科の立場から子育て支援活動を行っていく上でのひとつのケーススタディとしての意味を持ち，小児歯科の新たな方向性を示唆するものであると結論づけられる。

財団法人広島環境保健協会が実施する事業に参加させていただき，活動から得た知見を論文として発表させていただけることについて，財団法人広島環境保健協会に感謝申し上げます。ことに同協会の文化創造機構委員片野隆司先生並びに事務局の方々には，本研究をまとめるにあたり，多大なご協力をいただき，衷心より深謝申し上げます。

文　　献

1) 大日向雅美：子育てママの SOS. 法研，東京，pp. 59–67, 2000.
2) 吉岡陽雄，大塚隆英，大橋健治，岡本　誠，乗原康生，俵本寛志，道家至泰，徳永順一郎，外村誠，野々村榮二，吉見正樹：『先生，ありがとう!!助かりました』——OSP ホームページに寄せられた500通のメールから——. 小児歯誌 **41**, 427, 2003.
3) 盛岡俊介：子ども虐待（歯科との関わり）～予防と早期発見～. 東京都歯科医師会雑誌 **51**, 18–23, 2003.
4) 筒井　睦，南出恭子，人見さよ子，三村雅一，大谷敬三，渡邊景子，嘉藤幹夫，大東道治：幼児の口腔内状態と家庭環境の関連性について——とくに，歯科保健活動から子育て支援を考える——. 小児歯誌 **41**, 181–188, 2003.
5) 川崎裕美，海原康孝，小坂　忍，出路　愛，片野隆司：母親の育児不安と家族機能に関する感じ方との関連性の検討. 小児保健研究 **63**, 667–673, 2004.